

(9) 四国



四国地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は悪化している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

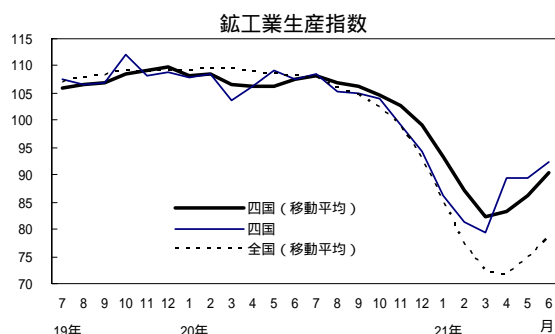
前回調査からの主要変更点

	今回(平成21年5月)	今回(平成21年8月)	
景況判断	急速に悪化	持ち直しの動き	
鉱工業生産	大幅に減少	持ち直している	
個人消費	弱い動き	持ち直しの動き	
雇用情勢	急速に悪化	悪化	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

化学は、医薬品やポリカーボネートで動きがあったことから、全体でも上昇している。電気機械は、自動車、電子部品向けの計数半導体集積回路のほか、蓄電池やマイコンが好調であったことから、全体でも上昇している。食料品は、菓子や飲料が好調であったことから、全体でも上昇している。パルプ・紙は、広告需要の減退もあり、印刷用紙が低調となりつつあるが、全体としては上昇している。一般機械は、個装・内装機械や半導体製造装置等が低調であったことから、全体でも減少している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。
2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

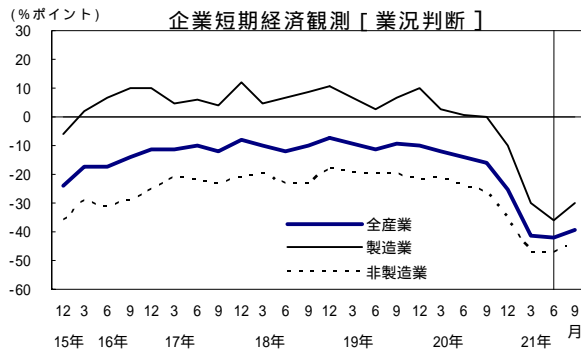
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
化学	17.1	12.0	14.0	16.5	21.2
電気機械	15.4	38.9	27.4	27.3	13.8
食料品	13.6	0.8	2.2	0.6	9.1
パルプ・紙	11.8	11.5	8.9	4.1	3.4
一般機械	8.9	23.2	17.0	18.5	10.0
鉱工業	100.0	17.0	9.8	8.5	3.6

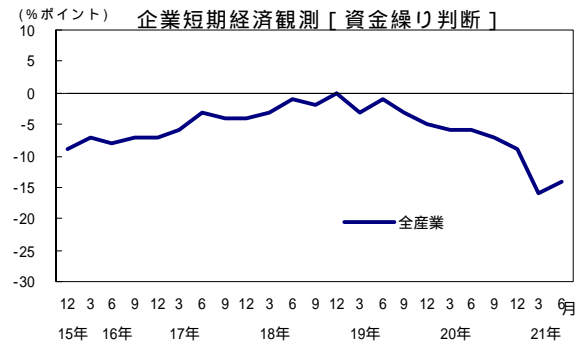
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 4~6月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が横ばいとなっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が縮小している。

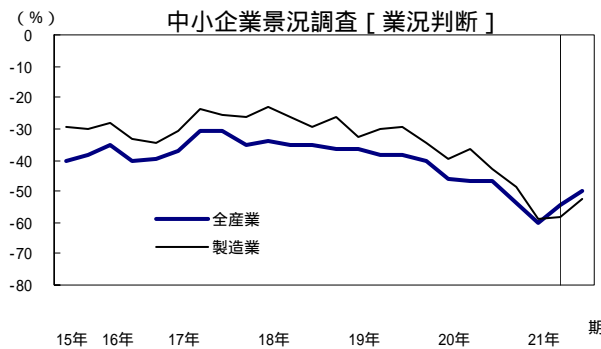
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年9月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

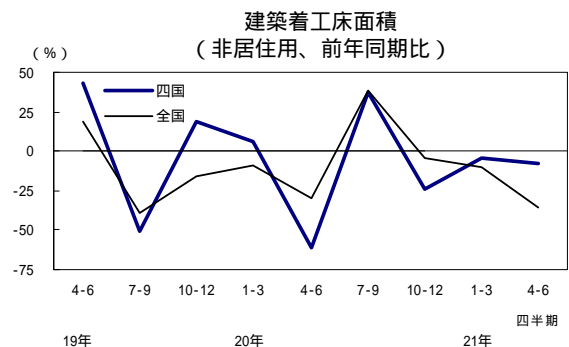
「一部の大手ユーザーとの商談が出始めてきたが、他社との競争は熾烈になっており、底値を探る安値競争となっている(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	17.4 [16.3]	16.0 [19.9]
製造業	21.0 [23.4]	34.0 [31.4]
非製造業	12.5 [6.4]	6.7 [6.7]

(備考)[]は前回(3月)調査結果。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

百貨店は、4月は、春・初夏物を中心に衣料品が不振で、また、ハンドバッグや靴を中心に身の回り品も低調であったことから、前年を下回った。5月は、高額商品や美術工芸品が低調で、婦人服を中心に衣料品も低調であったことから、前年を下回った。6月は、夏物クリアランスセールの前倒しにより、衣料品や身の回り品の一部に動きがみられたが、婦人服や時計、宝石等が振るわなかったことから、前年を下回った。なお、中国四国百貨店協会によると、四国地区の7月の売上高は前年同月比で8.4%減となっている。

スーパーは、販促効果や低価格商品が好調であった飲食料品は前年を上回ったが、生活防衛意識による買い控えに加え、競合店の影響が依然として続き、衣料品や身の回り品は低調で、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(7月)[家計動向関連(現状)]

「今月は、宣伝効果でテレビが持ち直してきている。反面、エアコン・冷蔵庫・洗濯機といった季節的に主力になるはずの商品が思ったより伸びず、「壊れたから買う」という客が多くなっている(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

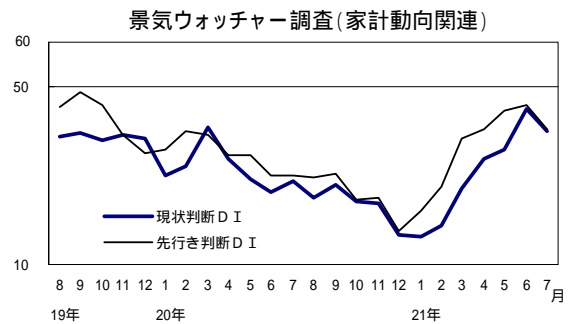
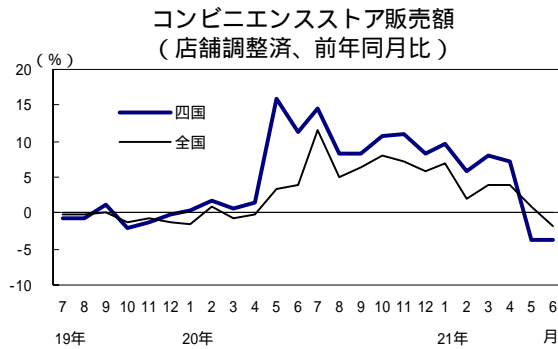
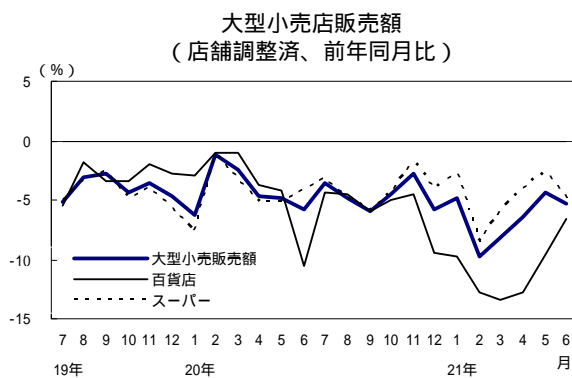
(前年同期比、%)

	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月
大型小売店	4.7	4.5	7.4	5.4
百貨店	4.9	6.7	11.8	9.7
スーパー	4.6	3.5	5.6	3.8
乗用車	2.8	10.7	17.7	10.8
景気ウォッチャー	27.3	21.5	20.7	38.2

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。

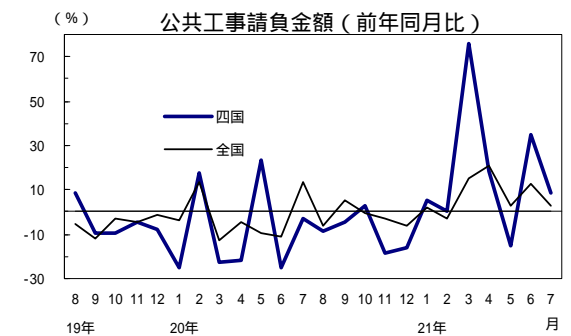
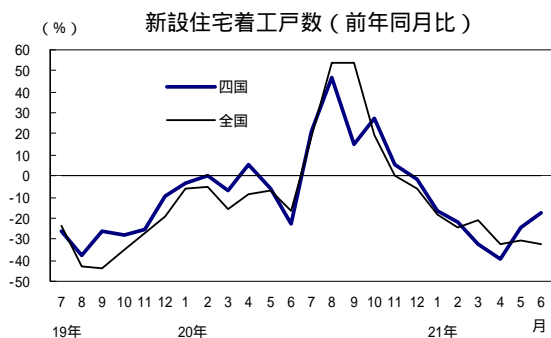
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家が前年を大幅に下回ったことから、全体でも大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

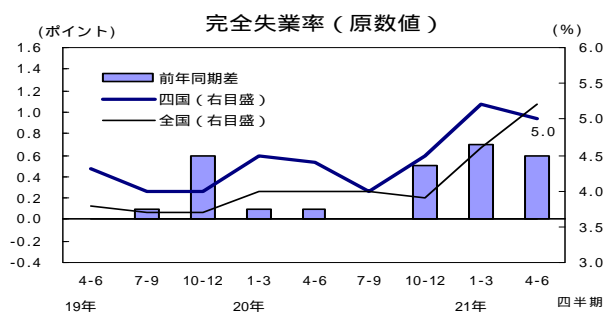
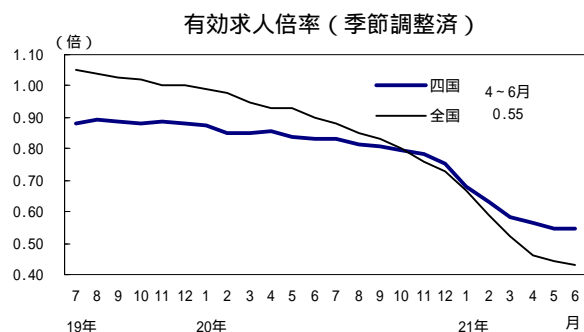


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は悪化している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月)[雇用関連(現状)]

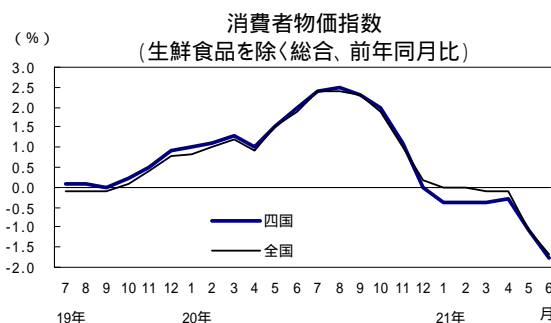
「4月以降、企業の中途求人ニーズは更に減少している。求人サイトへの掲載件数は前年比50%以下となっている。新卒も全国的に内定率50%程度と低迷しており、県内でも同様の傾向になっている(求人情報誌製作会社)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年7-9月	10-12月	21年1-3月	4-6月	21年7月
倒産件数	123	104	124	100	36
(前年比)	19.4	13.0	49.4	1.0	12.2
負債総額	375	188	603	231	135
(前年比)	22.3	4.5	139.7	33.0	42.2



景気ウォッチャー調査 (7月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

・公共工事では、公立学校の耐震工事がまとまった件数で発注されることになったが、競争が激しく、相当な低価格でないと落札できない状態であり、収益面では依然として厳しい(建設業)

<先行き>

・企業の出張需要は回復していない。しかし、海外旅行需要に関しては、9月の5連休効果や10月以降の燃油サーチャージの上昇が懸念されることで、前倒しの需要に若干期待できる(旅行代理店)

